

義塾の燈火は、確かに。

第 21 期生 加藤 瑞樹

「気品の泉源、智徳の模範...以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり」

上記の一節は、福澤諭吉が門下生たちに残した「慶應義塾の目的」と呼ばれる文章の一部である。福澤諭吉は、学問を修める過程で、「智徳」とともに「気品」を重視しており、人格を備えた社会の先導者となることが、義塾における教育の目標の 1 つであるという。塾高出身でも、體育會所属でも、ましてや熱狂的な愛塾者でもない、徳島生まれの外様塾生の 1 人である私が、義塾の精神を引いてあれこれ語ることは少々無作法かもしれないが、卒業エッセイということでどうかご容赦いただきたい。

私は、小野ゼミこそが、義塾の建学の精神を受け継ぎ、社会の先導者たる人格を育てる学び舎であると確信している。小野ゼミでの 2 年間は、「智徳」と「気品」の習得の機会を与えてくれることに限らず、「半学半教」を大いに実感させてくれるものであった。

まず、「智徳」の習得であるが、語るまでもなく、小野ゼミでの 2 年間で、ありとあらゆる研究プロジェクトを通して、様々な学びを得ることができた。ディベート、ビジネスコンテスト、ケースメソッド、三田論、卒論など、挙げればきりが無いが、古典的な理論から最新のテーマに至るまで、幅広いマーケティング研究の理解を深め、自分なりに問を立ててそれを実証する術を身につけた。また、理論や研究に基づく知見を、実際のマーケティング課題の解決に応用することにも挑戦した。しばしば、「文系の 4 年間などただの遊びである」と揶揄されることがあるが、私はそのような誹謗に対して、「マーケティングの素養を身につけ、マーケティング研究・実務の発展に微力ながらも貢献を成した」と胸を張って答えるであろう。誰かに与えられることもなく、誰かに強制されることもなく、自分の成長のために、自分の知識欲を満たすために、自ら学び、教えを乞う、というような小野ゼミでの学びが、知の探究の喜びを十分に実感させてくれた。

次に、「気品」の習得であるが、小野ゼミでの 2 年間で、小野先生や先輩方、OB・OG の方々、他大学の教授と関わる中で、社会人としてあるべき姿を常に意識させられた。メールの書き方から目上の方との関わり方、そして懇親会での振舞い方に至るまで、日吉の 2 年間では到底意識しなかった、社会人としてふさわしい振舞いの多くを学んだ。小野先生は、社会人として恥ずかしい無礼を決して許さなかったし、先輩や OB・OG の方々もまた、ゼミ生の礼儀を正すことに対して時間を惜しまなかった。上下関係や飲み会は、古臭く淘汰されるべきであるという意見もある時流の中で、無礼を指摘したり、懇親の場でのコミュニケーションを教えたりすることは、諸々のリスクが伴う。にも関わらず、ゼミ生の将来を想って、「気品」の習得に熱心になってくださった方々には、深く感謝の意を表したい。

そして、「半学半教」であるが、これこそが、小野ゼミでの活動の真骨頂であったといえる。「半学半教」とは、教える者と学ぶ者との師弟の分を定めず、先に学んだ者が後で学ぼうとする者を教えるという、義塾の草創期からの精神である。小野ゼミでは、教授や大学院生が教壇に立って一方的に教えるような講義を行うことはない。その代わりに、ゼミ生が準備した研究プロジェクトを、他のゼミ生や小野先生、大学院生の前でプレゼンテーションをし、全員で、「ああでもない」「こうでもない」「このようにすべきである」と思うがそれは考慮したのか」と議論を交わす。そうすることで、学部生や大学院生、指導教授という立場に縛られず、その場にいる全員が、学び合い、教え合うのである。その議論は、決まって白熱し、長時間に及ぶことがあるし、言い合いになることもあったが、それゆえに、心血を注いで本気になれた。

このように、私にとって、小野ゼミでの2年間は、「半学半教」の場のもとで、「智徳」と「気品」の習得の機会を与えてくれた、かけがえのない学び舎であった。自分がこんなにも学びを深めることが好きで、純粋に自分の考えを主張できるとは思いもしなかったが、どれもこれも、小野ゼミでの学びが開花させた自分の才能であった。小野ゼミの20世代にも及ぶOB・OGの方々、この学び舎で切磋琢磨し、皆それぞれが持つ個性を発揮して、社会で活躍されている。私も、小野ゼミで学び得た「智徳」と「気品」、そして私の才能を活かし、自分の大切なものを守り、社会に貢献できる人間になりたい。そして、これからの小野ゼミの後輩たちには、義塾の精神を受け継ぐこの学び舎での青春を存分に謳歌してほしいと切に願う。

末筆ながら、この2年間でお世話になった方々への感謝を綴りたい。恩師である小野晃典先生は、いつも私たち第21期生の活動を熱心にご指導してくださった。時間も場所も問わず、どんな時も見放さず、温かい愛情を降り注いでくださった。小野晃典先生には、甚謝申し上げたい。次に、いつも私たちの傍で、寛大な心で専門的な知識をもとにご指導くださった、王 瑀さん(第18期大学院生)、北澤涼平さん(第16期OB・第20期大学院生)、および 嘉寧さん(第22期大学院生)には、深謝申し上げたい。また、学も常識もない私たち第21期生を手取り足取りご指導いただいた第20期生の方々にも、深謝申し上げたい。そして、いつも元気一杯の姿を見せてくれ、微力ながら指導に携わらせていただいた、第22期生の皆さんには、厚謝申し上げたい。さらに、どんな私でも受け入れてくれ、四六時中同じ時を過ごして切磋琢磨し合った、同期第21期生の皆さんには、感謝申し上げたい。最後に、帰りが遅く不規則な生活を心配して下さり、私たち第21期生の活動を支えてくださった、第21期生の保護者の方々には、格別の感謝を申し上げたい。



スマホの写真フォルダにあった思い出の写真たち